

# 日本食糧新聞

## 前田園USA



前田拓CEO

1984年の創業以来、米国を拠点に世界約40カ国に日本茶と抹茶ベイス商品の製造販売を行う前田園USA。創業者前田拓CEOは日本が誇る緑茶文化を世界に広め、抹茶アイス・ラテを世界に先駆け生み出した抹茶クリエーターかつ、グローバルビジネスのパイオニアで、このほど「抹茶革命と長崎」(長崎文献社)を出版。背景に、今や世界中に「Matcha」という言葉が拡散す

## 抹茶ビジネスのパイオニア



・前田園の次男として長崎に生まれ、日本茶の歴史をひもとく中で、99年、世界初の抹茶カフェをロサンゼルスにオープンし、抹茶ラテを販売。ちなみにスターバツク

え、93年に抹茶アイスを発売し、95年に日本へ輸出(ハーゲンダッツジャパンは96年)した。併せて99年、世界初の抹茶カフェをロサンゼルスにオープンし、抹茶ラテを販売。ちなみにスターバツク

## 世界普及尽力「抹茶革命と長崎」出版

## 背景に日本茶への危機感

一方、国内にあつては日本茶需要の長期的減少という危機を迎えることがある。発刊の思いを聞いた。

煎茶(17世紀)と、40年周期で進化を遂げたことが判明し、第4ステージの21世紀を切り開くため渡米。以後40年にわたり、日本茶の世界普及に尽力してきたが、当初は苦勞の連続だった。

煙が多く、機械化が困難で量産に不向きだ。その分品質を高め単価であることが、持続可能性の観点からも不可欠で、われわれはその価値をお客さまに伝え、産地の多様な確保にも貢献する必要がある。

海外で職業を聞かれ「グリーンティービジネス」と答えると、「オー!クール(カッコいい)」と返される時代になった。そもそも緑茶販売業

そこで、現地で新しいお茶需要を創造し、日本も近年は毎年7万〜8万円となり、直近では6万円

日本茶と長崎との関わりは江戸時代までさかのぼり、出島から東インド会社による欧州輸出が始まり、明治初頭には輸出品目の首位を占めていた。この国際貿易商品に育て上げたパウも重要な歴史遺産と言え、昨年、農林水産物・食品の輸出金額が1兆円の新たなステージに到達したが、始まりは長崎のお茶貿易といっても過言ではない。

(佐藤路登世)